2024 年 10 月 11 日

岡山県感染症週報 2024 年第 40 週（9 月 30 日 ～ 10 月 6 日）

◆2024 年　第 40 週（ 9 / 30 ～ 10 / 6）の感染症発生動向（届出数）

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

■全数把握感染症の発生状況

第 38 週　2 類感染症　結核　1 名（60 代　男）
　　5 類感染症　水痘（入院例）　1 名（30 代　男）
　　百日咳　1 名（中学生　女）

第 39 週　2 類感染症　結核　3 名（乳児　女　1 名、30 代　男　1 名、80 代　女　1 名）
　　5 類感染症　水痘（入院例）　1 名（80 代　男）
　　梅毒　3 名（30 代　男　1 名、40 代　男　1 名・女　1 名）

第 40 週　2 類感染症　結核　7 名（30 代　男　1 名、40 代　女　1 名、50 代　男　1 名、
　　60 代　男　1 名、70 代　男　1 名・女　1 名、90 代　男　1 名）
　　3 類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　4 名（O157： 幼児　男　1 名、
　　40 代　男　1 名・女　1 名、60 代　男　1 名）
　　4 類感染症　日本紅斑熱　2 名（70 代　女　1 名、80 代　男　1 名）
　　レジオネラ症　1 名（60 代　男）
　　5 類感染症　梅毒　11 名（10 代　女　1 名、20 代　男　2 名・女　3 名、
　　30 代　女　1 名、40 代　男　2 名、50 代　男　1 名、60 代　男　1 名）

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

〇新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 265 名（定点あたり 3.15 人）の報告がありました。

〇マイコプラズマ肺炎の報告が多くなっています。

---

1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 265 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 3.46 → 3.15 人）。詳しくは、**「☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報」**および岡山県感染症情報センターホームページ『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報』をご覧ください。
2. 腸管出血性大腸菌感染症は、2024 年第 40 週に 4 名の報告があり、2024 年の累計報告数は 56 名となりました（2023 年の同時期：82 名）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『腸管出血性大腸菌感染症注意報　発令中！』をご覧ください。
3. 日本紅斑熱は、2024 年第 40 週に 2 名の報告があり、2024 年の累計報告数は 14 名となりました（2023 年の同時期：9 名）。ダニが媒介する感染症として、他に重症熱性血小板減少症候群（SFTS）やつつが虫病などがあります。これらは、病原体を保有するマダニまたはツツガムシに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については**コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう！」**をご覧ください。
4. 梅毒は、2024 年第 40 週に 11 名の報告があり、2024 年の累計報告数は 273 名となりました（2023 年の同時期：228 名）。今年は県内において、1999 年の感染症法施行以降で年間報告数が最多となった昨年を上回る勢いで報告がありました。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『梅毒について』をご覧ください。
5. マイコプラズマ肺炎は、県全体で 13 名の報告があり、前週から増加しました（定点当たり 1.40 → 2.60 人）。この感染症は、小児や若い人の肺炎の原因として比較的多くみられ、主な症状は発熱、全身倦怠感、頭痛、せき（解熱後も長期にわたって続く）などです。詳しくは次のホームページをご覧ください。→マイコプラズマ肺炎（厚生労働省）

流行の推移（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は別掲載）

疾病名	定点あたり患者数		推移	疾病名	定点あたり患者数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.07	0.31	↗	ヘルパンギーナ	0.13	0.28	↗
RSウイルス感染症	0.37	0.17	↘	流行性耳下腺炎	0.07	0.00	↘
咽頭結膜熱	0.17	0.13	↘	急性出血性結膜炎	0.00	0.08	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.96	1.06	→	流行性角結膜炎	0.08	0.08	→
感染性胃腸炎	2.06	2.46	↗	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.09	0.07	↘	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
手足口病	1.81	2.15	↗	マイコプラズマ肺炎	1.40	2.60	↗
伝染性紅斑	0.02	0.07	↗	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
突発性発しん	0.17	0.28	↗	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↘：減少　増加･減少 ： 前週比10%以上の増減

風しんの抗体検査（無料）を受けましょう！

＜妊娠を希望する女性や同居する家族の方＞

岡山県・岡山市・倉敷市では、**先天性風しん症候群（CRS）**※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市･倉敷市以外 → 風しんの無料抗体検査が受けられます　（岡山県疾病感染症対策課）

岡山市 → 風しんの無料抗体検査

倉敷市 → 風しん抗体検査について　をご覧ください。

＜1962(昭和 37)年４月２日から 1979(昭和 54)年４月１日までに生まれた男性＞

風しんの抗体保有率が低い 1962 年４月２日から 1979 年４月１日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025 年３月 31 日まで**）。

以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト

※妊娠初期に風しんにり患すると、出生児に**先天性風しん症候群（CRS）**と総称される障がいを引き起こすことがあります。**先天性心疾患、難聴、白内障が３大症状**です。

岡山県の 2019 年４月～2024 年５月の風しんのクーポン使用実績（抗体検査）は、35.1%と未だに低い状況です！
CRS を防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

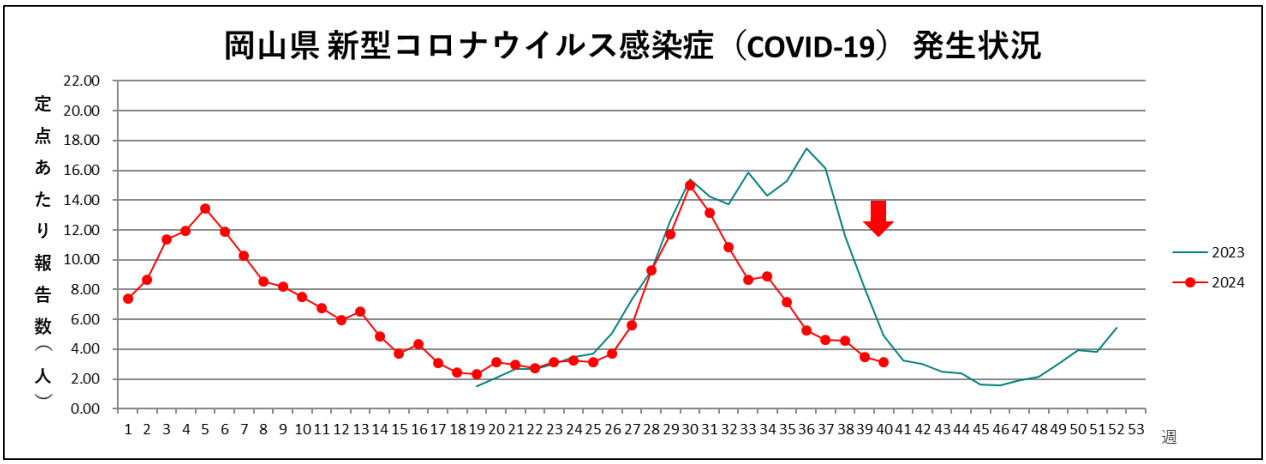
風しんの追加的対策について（厚生労働省）
風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）
“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）

© 岡山県「ももっち･うらっち」

☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（第 40 週（ 9 / 30 ～ 10 / 6 ））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 265 名（定点あたり 3.15 人）の報告がありました（84 定点医療機関報告）。



※ 2023 年は定点把握対象へ移行した第 19 週から表示しています。
※ 全数把握時のデータはこちら
※ 2023 年 5 月 7 日（2023 年第 18 週）までの全数把握の患者数をもとに、2023 年 5 月 8 日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ 厚生労働省 HP

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 265 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 3.46 → 3.15 人）。地域別では、倉敷市（4.94 人）、美作地域（4.10 人）、備中地域（3.33 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、10 代以下および 30 代を除く年代で前週から減少しました。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3 密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で流行が継続している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m 以内）で感染しますが、エアロゾルは 1m を超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が 2～3 日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後期に感染すると、早産率が高まり、患者本人も一部は重症化することが報告されています。（新型コロナウイルスに関する Q&A（一般の方向け）（厚生労働省））。

●ワクチン接種について

ワクチンは新型コロナウイルス感染症にかかった場合に重症化を予防する効果があるとされています。

ワクチンの全額公費による接種は終了しましたが、令和 6 年 10 月から次の方を対象にお住まいの市町村による定期接種が始まりました。

・65 歳以上の方
・60～64 歳で、心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）により免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

詳しくは以下をご覧ください。

- 新型コロナワクチンについて（厚生労働省）
- 新型コロナワクチンについて（岡山県疾病感染症対策課）

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

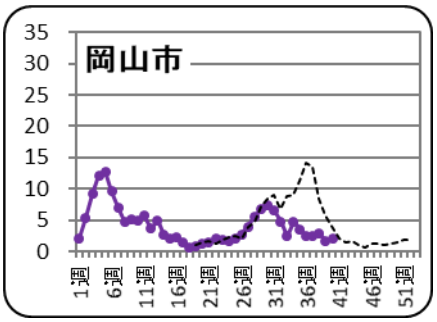
- 罹患後症状のマネジメント・第 3.0 版（2023 年 10 月 20 日発行）
- 『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）

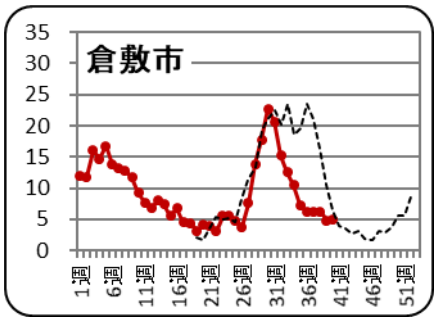
1.　地域別発生状況

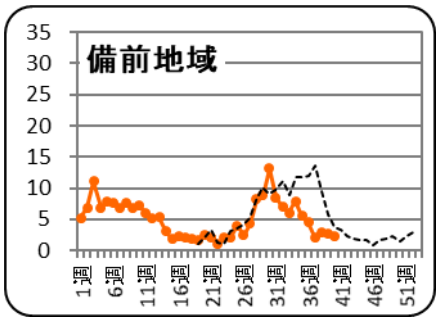
地域名	発生状況（人）		推移	地域名	発生状況（人）		推移
岡山県全体	**患 者 数**	**265**	→	備　中	患 者 数	40	→
	定点あたり	**3.15**			定点あたり	3.33	
岡山市	患 者 数	46	↗	備　北	患 者 数	16	↖
	定点あたり	2.09			定点あたり	2.67	
倉敷市	患 者 数	79	→	真　庭	患 者 数	9	→
	定点あたり	4.94			定点あたり	3.00	
備　前	患 者 数	34	↖	美　作	患 者 数	41	↖
	定点あたり	2.27			定点あたり	4.10	

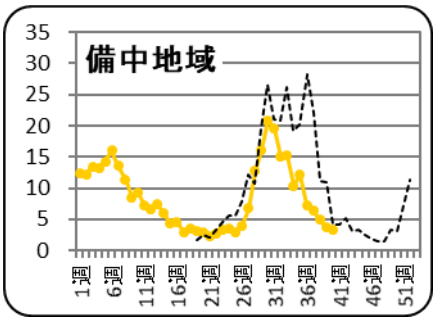
【記号の説明】前週からの推移　↑：大幅な増加　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↘：減少　↓：大幅な減少

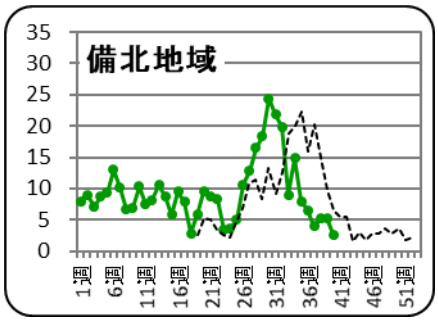
大幅：前週比 100%以上の増減　　増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

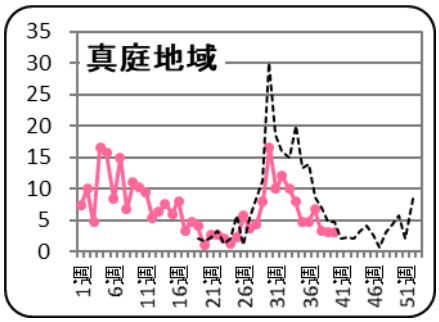


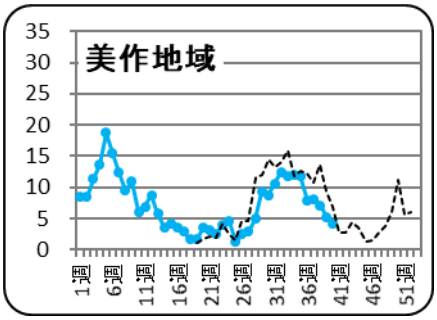


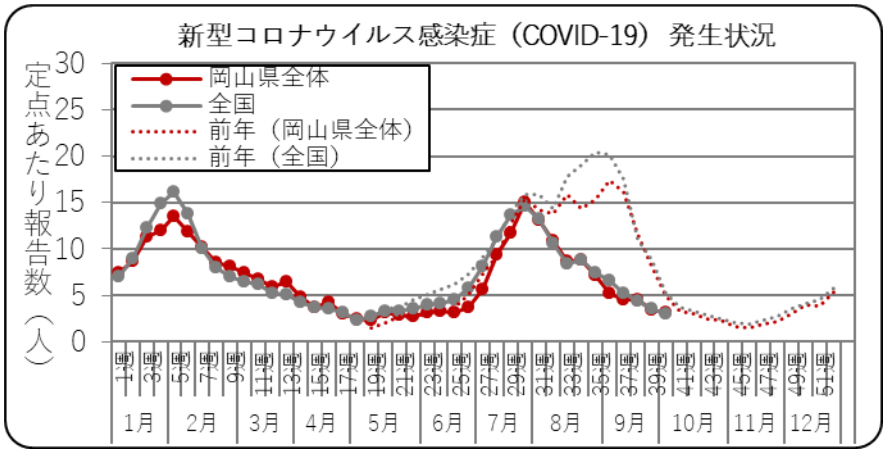












※前年データは破線で示しています。

〇全国の発生状況

全国集計 2024 年第 40 週速報値（2024 年 10 月 9 日時点）によると、全国の定点あたり報告数は 3.07 人となり、前週から減少しました。

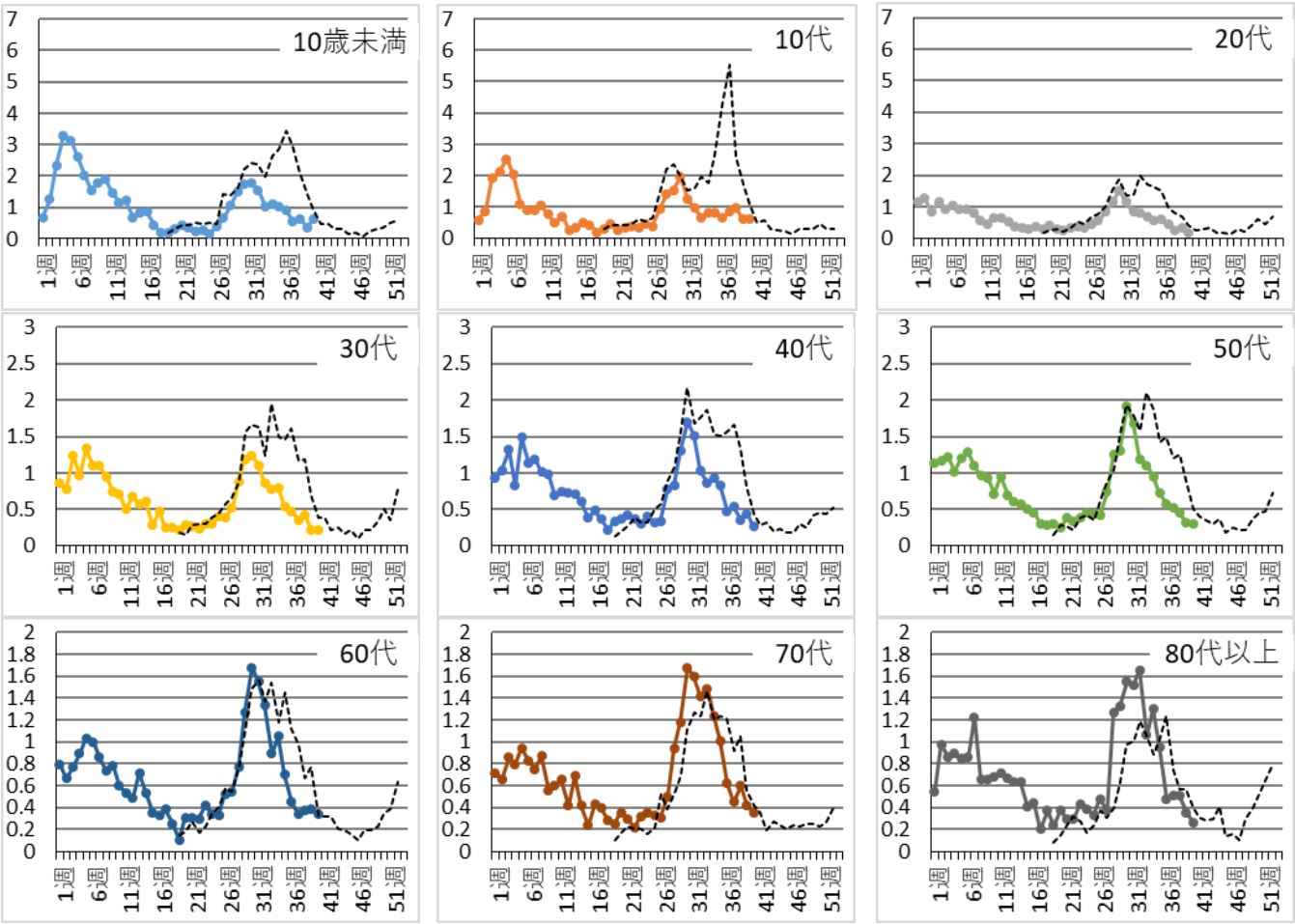
新型コロナウイルス感染症の国内発生状況等について（厚生労働省）

2.　年齢別発生状況

〇第 40 週　（単位：名）

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
265	26	11	16	36	16	13	19	22	25	29	30	22

〇年齢階級別の定点あたり報告数の推移



※前年データは破線で示しています。

留意点：年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、報告数は小児に偏ります。一方で、年齢階級別の報告数により、経時的な流行全体の傾向（トレンド）と水準（レベル）の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます。

3.　新型コロナウイルス検出状況（ゲノム解析）

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

〇岡山県の状況

→　新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）

〇全国の状況

→　SARS-CoV-2 変異株について（国立感染症研究所）

4.　入院状況

【入院基幹定点サーベイランス】

基幹定点医療機関（岡山県の基幹定点数：5）から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による入院患者数等の報告（週単位）を受けて、入院患者の発生動向や重症化の傾向を経時的に把握することを目的としています。2023 年 9 月 25 日（第 39 週）から開始しました（インフルエンザについても同様のサーベイランスが既に行われています。）。

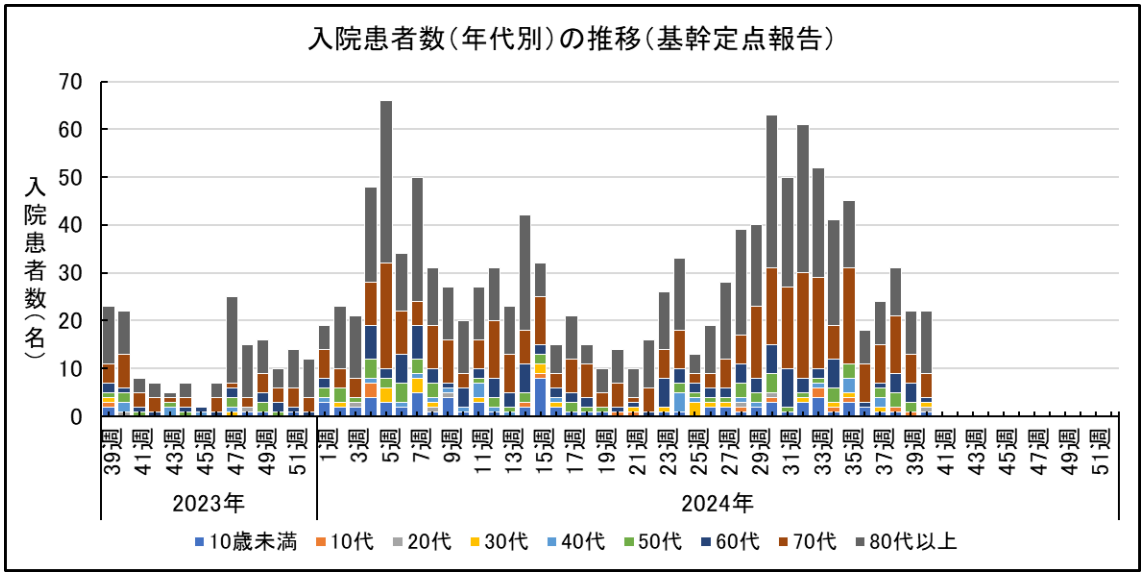
○入院基幹定点サーベイランス（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

【第 40 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計＊
入院患者数	**1**					**1**	**1**			**1**	**5**	**13**	**22**
ICU入室＊													
人工呼吸器の利用＊											1		1
いずれにも該当せず	1					1	1			1	4	13	21

＊重複あり

【入院患者数（年代別）の推移】



今週の注目感染症

☆マイコプラズマ肺炎

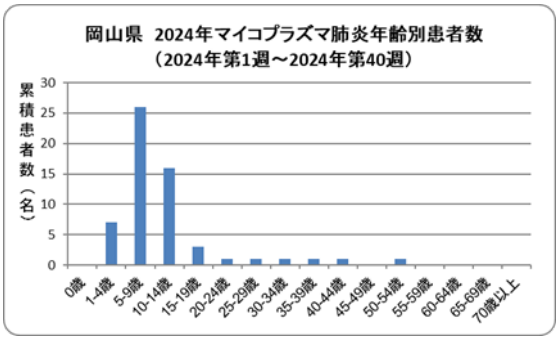
●マイコプラズマ肺炎とは

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。小児や若い人の肺炎の原因として、比較的多くみられ、例年、患者の 6～8 割は 14 歳以下です。マイコプラズマ肺炎は 1 年を通じて発生しますが、秋冬に増加する傾向があります。

感染経路は、飛沫感染や接触感染であり、家庭のほか、学校などでも感染の伝播がみられます。感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2～3 週間とされています。

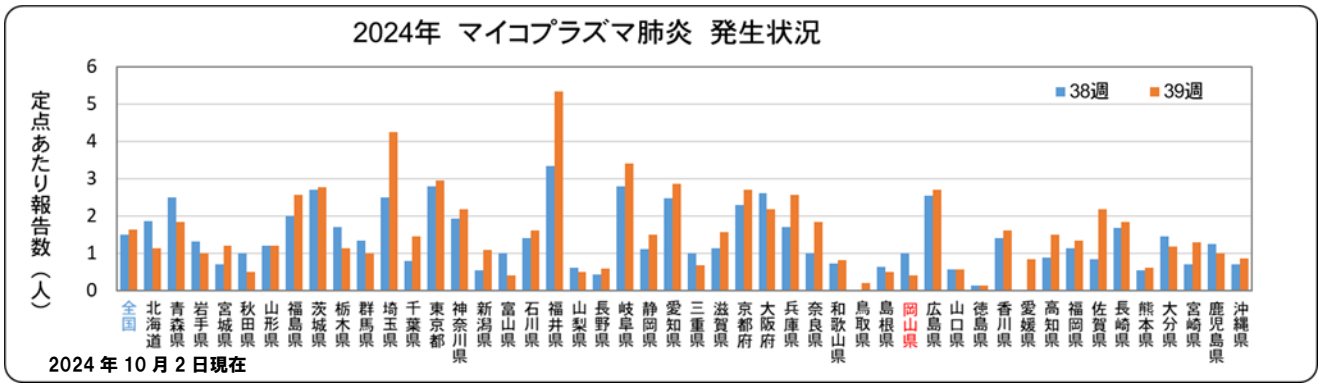
主な症状は発熱や全身の倦怠感、頭痛、せきなどです。せきは遅れて始まることもあり、熱が下がった後も長期にわたって（3～4 週間）続くのが特徴です。多くの人は気管支炎程度の軽い症状で済みますが、一部の人は肺炎を発症し、重症化します。また、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などを併発する症例も報告されています。

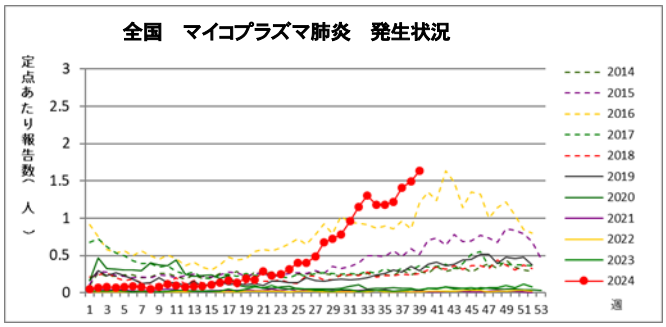
●発生状況

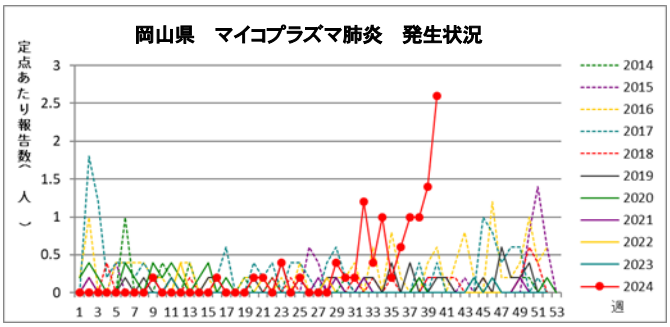


全国の第 39 週（9/23～9/29）のマイコプラズマ肺炎の報告数は前週から増加し（定点あたり 1.49→1.64 人）、過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。都道府県別では福井県（5.33 人）、埼玉県（4.25 人）、岐阜県（3.40 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

岡山県では第 40 週（9/30 ～ 10 /6 ）は県全体で 13 名の報告があり（5 定点医療機関報告）、前週から増加しました（定点あたり 1.40 → 2.60 人）。地域別では、岡山市で 4 名、倉敷市で 9 名の報告がありました。年齢別では、第 40 週までで 14 歳以下が全体の 84%を占めています。







●治療・予防方法

マクロライド系などの抗菌薬で治療します（成人で、肺炎を伴わない気管支炎であれば、抗菌薬による治療を行わないことが推奨されています）。また、マクロライド系抗菌薬が効かない「耐性菌」に感染した場合は他の抗菌薬で治療します。

予防としては、患者との濃厚接触やタオルの共用を避け、せっけんや流水による手洗いの実施、マスク着用を含む咳エチケットなどの一般的な感染防止策が効果的とされています。

せきが長引くなどの症状がある時は、医療機関を受診するようにしましょう。

詳しくはこちらをご覧ください⇒マイコプラズマ肺炎（厚生労働省）
マイコプラズマ肺炎に関するＱ＆Ａ（厚生労働省）
マイコプラズマ肺炎とは（国立感染症研究所）

◆◆◆ 食中毒予防の３原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

➢ 「清潔」（菌をつけない）

・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➢ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、４℃以下で保存するよう努めましょう。）

➢ 「加熱」（菌をやっつける）

・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、１分間以上の加熱で死滅します）。

0157 の電子顕微鏡画像
（国立感染症研究所）

食中毒予防の３原則（岡山県生活衛生課）
家庭でできる食中毒予防の６つのポイント（厚生労働省）
家庭でできる食中毒予防の６つのポイント（厚生労働省作成チラシ）

～ ダニの活動が活発になる時期です ～

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）※、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがいます。

ダニは、春から秋（3 月～11 月）にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤（マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの）を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

吸血後の
フタトゲチマダニ♀

**※SFTS は SFTS ウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。**

ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ 日本紅斑熱とは （国立感染症研究所）
⇒ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A （厚生労働省）
⇒ ツツガムシ病とは （国立感染症研究所）
⇒ マダニ対策、今できること （国立感染症研究所）

保健所別報告患者数　2024年 40週（定点把握）　（ 2024/09/30～2024/10/06 ）

2024年10月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	26	0.31	6	0.27	2	0.13	1	0.07	13	1.08	2	0.33	2	0.67	–	–
RSウイルス感染症	9	0.17	5	0.36	1	0.09	1	0.10	–	–	–	–	1	0.50	1	0.17
咽頭結膜熱	7	0.13	4	0.29	1	0.09	1	0.10	–	–	–	–	–	–	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	17	1.21	20	1.82	5	0.50	7	1.00	5	1.25	–	–	3	0.50
感染性胃腸炎	133	2.46	49	3.50	21	1.91	34	3.40	7	1.00	12	3.00	–	–	10	1.67
水痘	4	0.07	–	–	1	0.09	2	0.20	–	–	–	–	–	–	1	0.17
手足口病	116	2.15	39	2.79	13	1.18	15	1.50	21	3.00	5	1.25	–	–	23	3.83
伝染性紅斑	4	0.07	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	0.50
突発性発疹	15	0.28	2	0.14	5	0.45	1	0.10	5	0.71	1	0.25	–	–	1	0.17
ヘルパンギーナ	15	0.28	2	0.14	8	0.73	–	–	2	0.29	–	–	–	–	3	0.50
流行性耳下腺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	1	0.08	–	–	1	0.25	–	–	–	–					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	13	2.60	4	4.00	9	9.00					–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–

（ – ： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

保健所別報告患者数　2024年 40週（発生レベル設定疾患）　（ 2024/09/30～2024/10/06 ）

2024年10月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	26	0.31	6	0.27	2	0.13	1	0.07	13	1.08	2	0.33	2	0.67	－	－
咽頭結膜熱	7	0.13	4	0.29	1	0.09	1	0.10	－	－	－	－	－	－	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	17	1.21	20	1.82	5	0.50	7	1.00	5	1.25	－	－	3	0.50
感染性胃腸炎	133	2.46	49	3.50	21	1.91	34	3.40	7	1.00	12	3.00	－	－	10	1.67
水痘	4	0.07	－	－	1	0.09	2	0.20	－	－	－	－	－	－	1	0.17
手足口病	116	2.15	39	2.79	13	1.18	15	1.50	21	3.00	5	1.25	－	－	23	**3.83**
伝染性紅斑	4	0.07	1	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	0.50
ヘルパンギーナ	15	0.28	2	0.14	8	0.73	－	－	2	0.29	－	－	－	－	3	0.50
流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	1	0.08	－	－	1	0.25	－	－	－	－					－	－

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

（－： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2024年　第40週　 2024/09/30～2024/10/06 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	26	1	1	3	–	1	4	1	3	2	1	1	5	–	1	–	1	1	–	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	9	1	–	3	2	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	7	–	–	4	1	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	–	–	–	–	5	8	8	8	2	7	5	10	–	4
感染性胃腸炎	133	3	8	18	12	20	8	7	8	10	3	3	20	2	11
水痘	4	–	–	–	2	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–
手足口病	116	1	5	34	20	14	19	8	4	4	3	2	1	1	–
伝染性紅斑	4	–	–	–	1	1	1	–	–	–	–	–	1	–	–
突発性発疹	15	–	2	10	1	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	15	–	2	6	–	1	3	2	1	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
流行性角結膜炎	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	13	–	4	4	2	–	1	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

（ – ： 0 ）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19） 報告患者数 2024年 40週（定点把握） （ 2024/09/30～2024/10/06 ） 2024年10月10日

保健所別

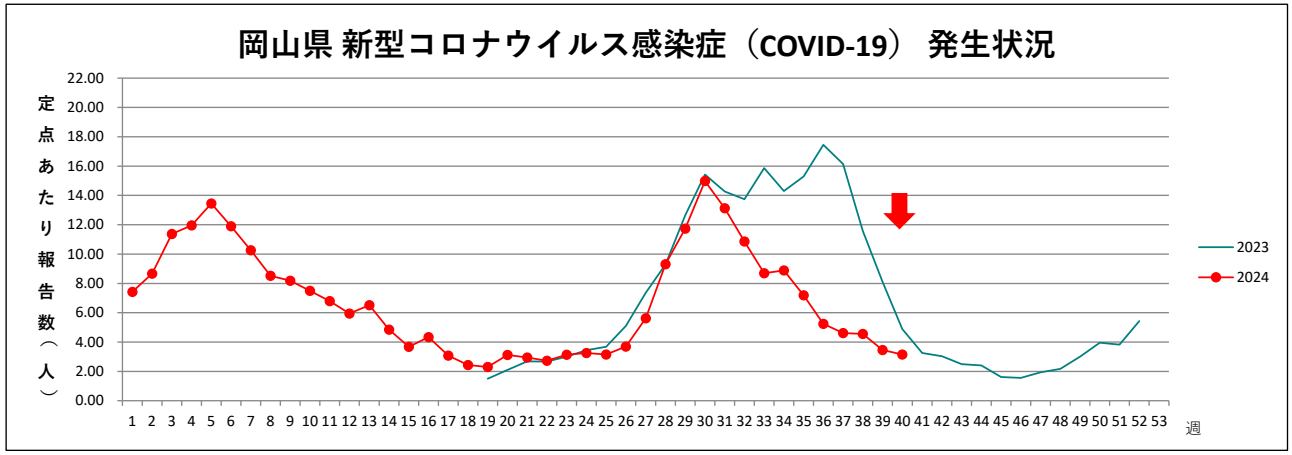
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	265	3.15	46	2.09	79	4.94	34	2.27	40	3.33	16	2.67	9	3.00	41	4.10

（－： 0 or 0.00 ）

年齢別

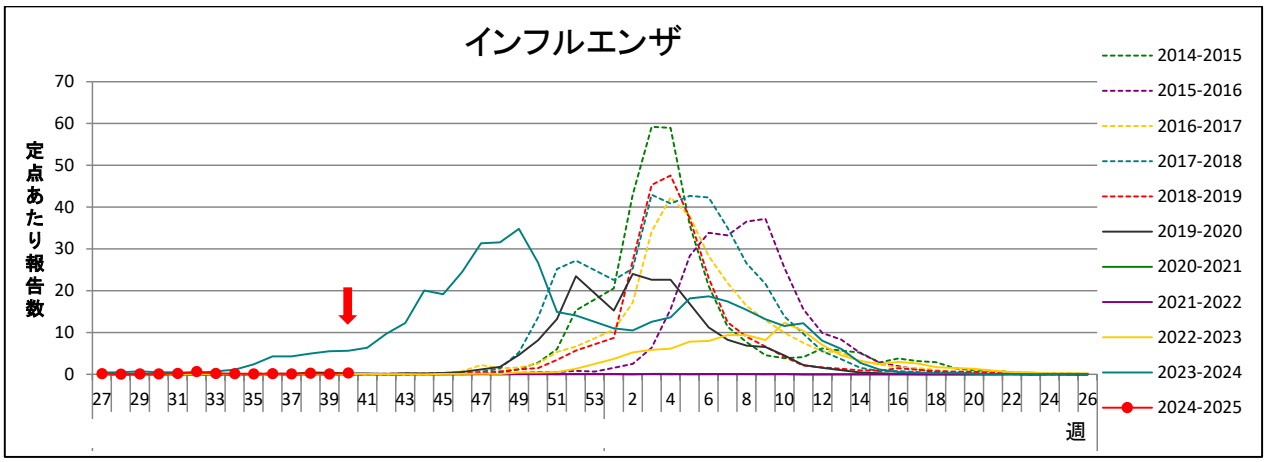
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	265	3	5	16	1	1	1	3	7	3	7	6	36	16	13	19	22	25	29	30	22

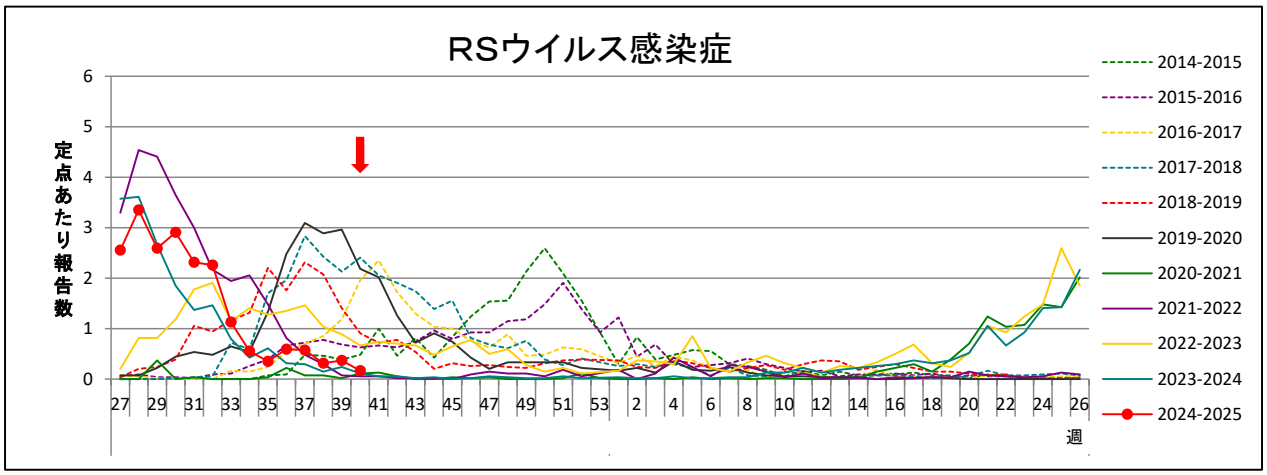
（－： 0 ）

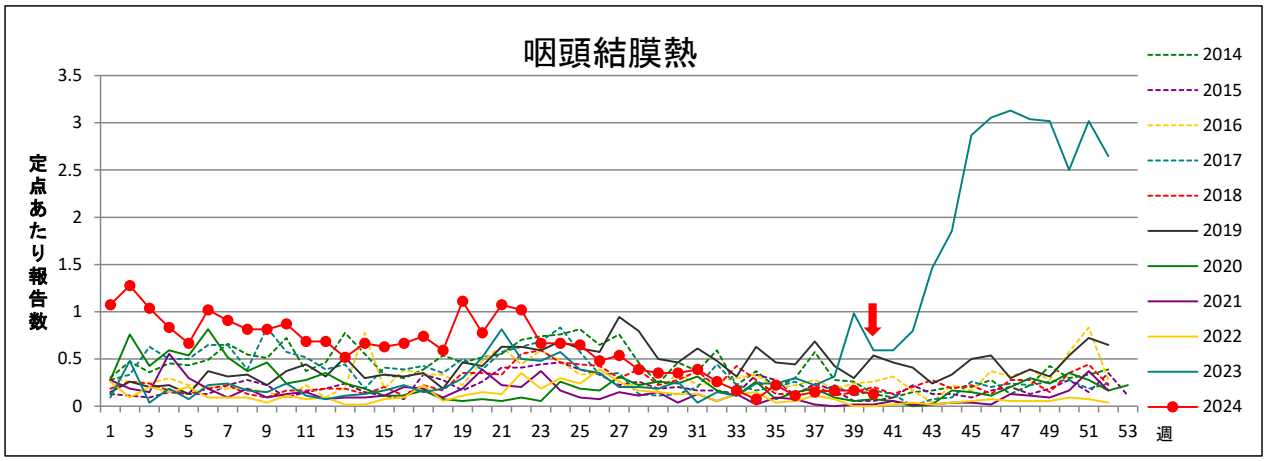


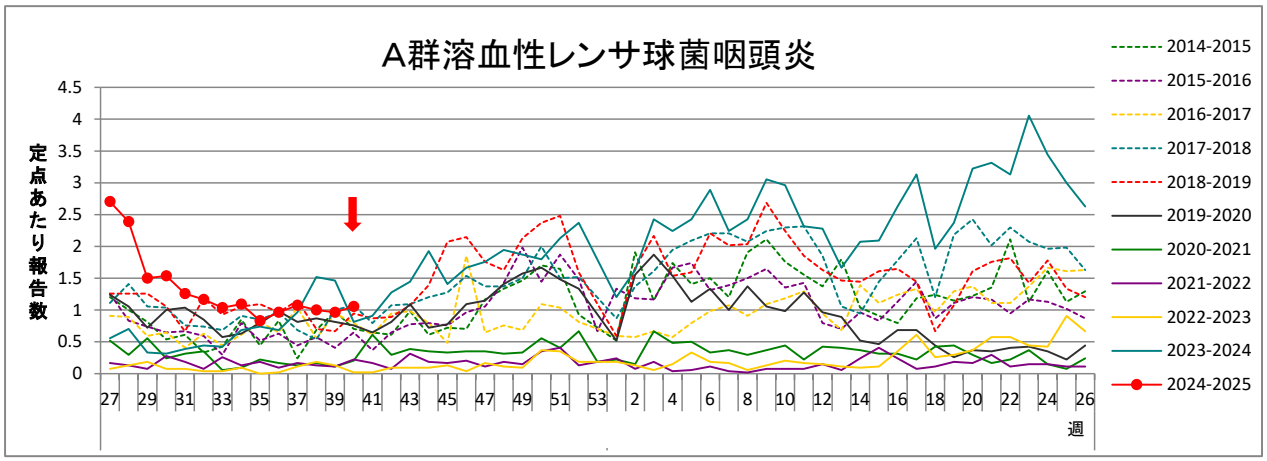
全数把握 感染症患者発生状況　2024 年 40 週

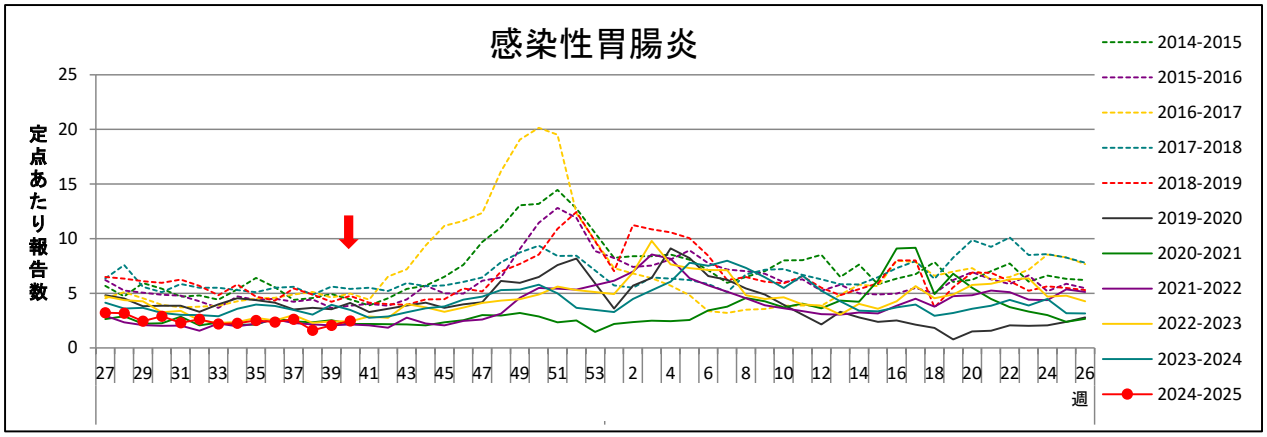
分類	疾病名	2024 今週	2024 累計	2023 昨年	疾病名	2024 今週	2024 累計	2023 昨年	疾病名	2024 今週	2024 累計	2023 昨年
一類	エボラ出血熱	−	−	−	クリミア・コンゴ出血熱	−	−	−	痘そう	−	−	−
	南米出血熱	−	−	−	ペスト	−	−	−	マールブルグ病	−	−	−
	ラッサ熱	−	−	−								
二類	急性灰白髄炎	−	−	−	結核	7	191	211	ジフテリア	−	−	−
	重症急性呼吸器症候群	−	−	−	中東呼吸器症候群	−	−	−	鳥インフルエンザ（H5N1）	−	−	−
	鳥インフルエンザ（H7N9）	−	−	−								
三類	コレラ	−	−	−	細菌性赤痢	−	1	1	腸管出血性大腸菌感染症	4	56	104
	腸チフス	−	2	1	パラチフス	−	−	−				
四類	E型肝炎	−	1	2	ウエストナイル熱	−	−	−	A型肝炎	−	4	−
	エキノコックス症	−	−	−	エムポックス	−	−	1	黄熱	−	−	−
	オウム病	−	−	1	オムスク出血熱	−	−	−	回帰熱	−	−	−
	キャサヌル森林病	−	−	−	Q熱	−	−	−	狂犬病	−	−	−
	コクシジオイデス症	−	−	−	ジカウイルス感染症	−	−	−	重症熱性血小板減少症候群	−	−	4
	腎症候性出血熱	−	−	−	西部ウマ脳炎	−	−	−	ダニ媒介脳炎	−	−	−
	炭疽	−	−	−	チクングニア熱	−	−	−	つつが虫病	−	−	4
	デング熱	−	−	−	東部ウマ脳炎	−	−	−	鳥インフルエンザ	−	−	−
	ニパウイルス感染症	−	−	−	日本紅斑熱	2	14	13	日本脳炎	−	−	−
	ハンタウイルス肺症候群	−	−	−	Bウイルス病	−	−	−	鼻疽	−	−	−
	ブルセラ症	−	−	−	ベネズエラウマ脳炎	−	−	−	ヘンドラウイルス感染症	−	−	−
	発しんチフス	−	−	−	ボツリヌス症	−	−	−	マラリア	−	−	−
	野兎病	−	−	−	ライム病	−	−	−	リッサウイルス感染症	−	−	−
	リフトバレー熱	−	−	−	類鼻疽	−	−	−	レジオネラ症	1	31	50
	レプトスピラ症	−	−	−	ロッキー山紅斑熱	−	−	−				
五類	アメーバ赤痢	−	7	11	ウイルス性肝炎	−	4	4	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	−	24	28
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	−	2	1	急性脳炎	−	6	11	クリプトスポリジウム症	−	−	−
	クロイツフェルト・ヤコブ病	−	1	−	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	−	28	10	後天性免疫不全症候群	−	7	5
	ジアルジア症	−	1	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	−	9	10	侵襲性髄膜炎菌感染症	−	2	−
	侵襲性肺炎球菌感染症	−	22	35	水痘（入院例に限る。）	−	7	5	先天性風しん症候群	−	−	−
	梅毒	11	273	316	播種性クリプトコックス症	−	5	2	破傷風	−	−	4
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	−	−	−	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	−	−	2	百日咳	−	13	22
	風しん	−	−	−	麻しん	−	−	−	薬剤耐性アシネトバクター感染症	−	−	2

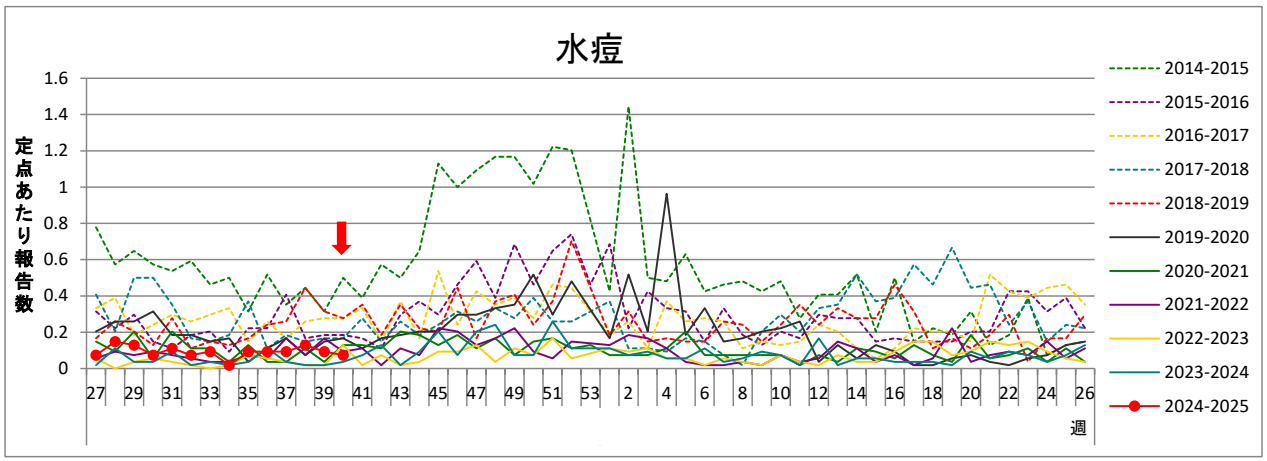

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025

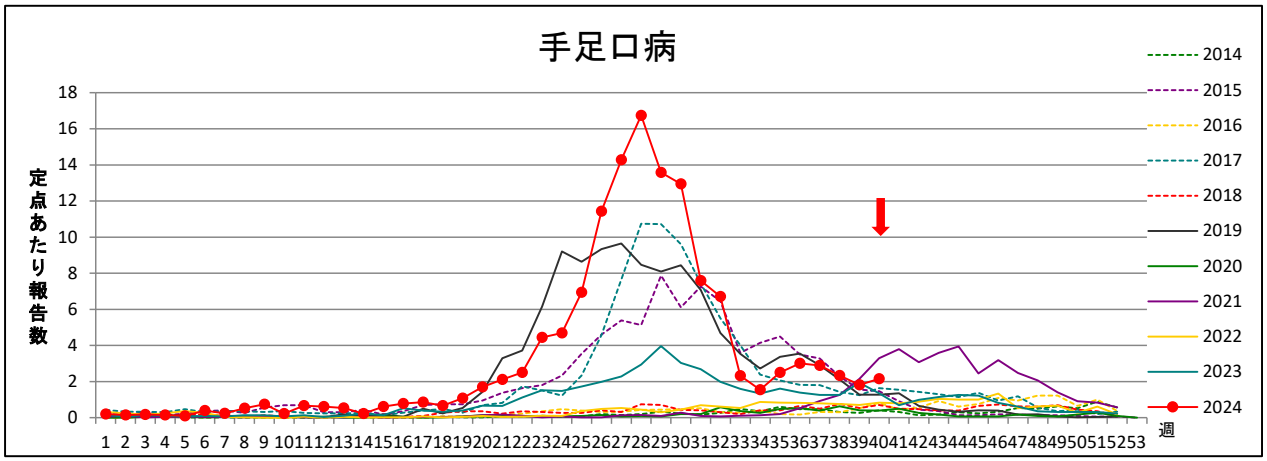

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025

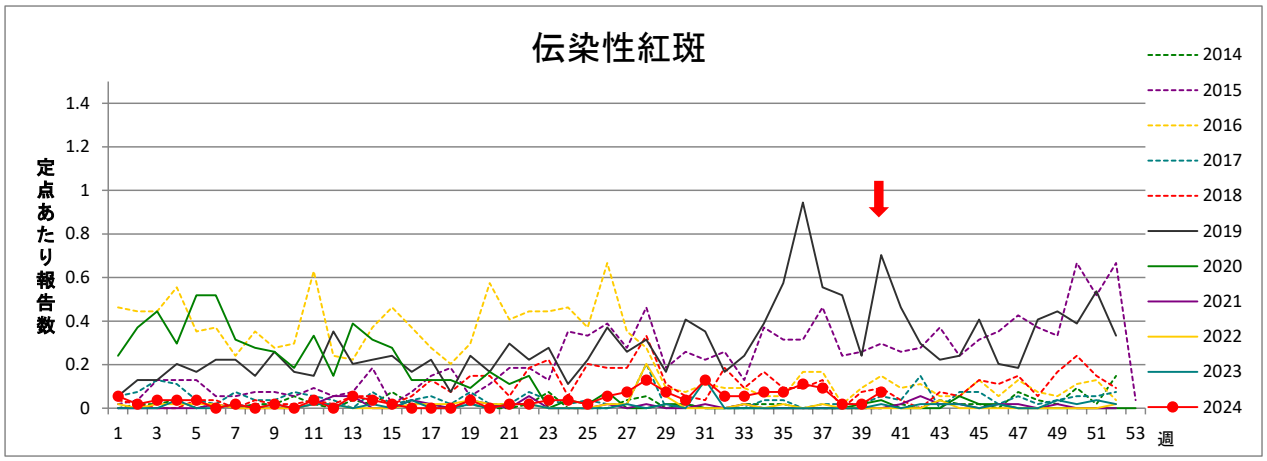

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024

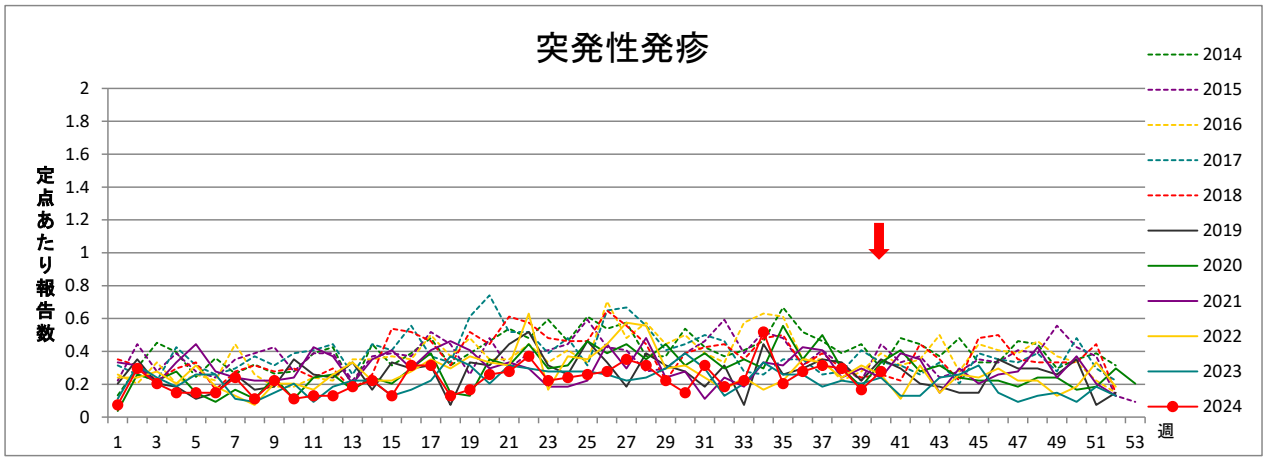

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025

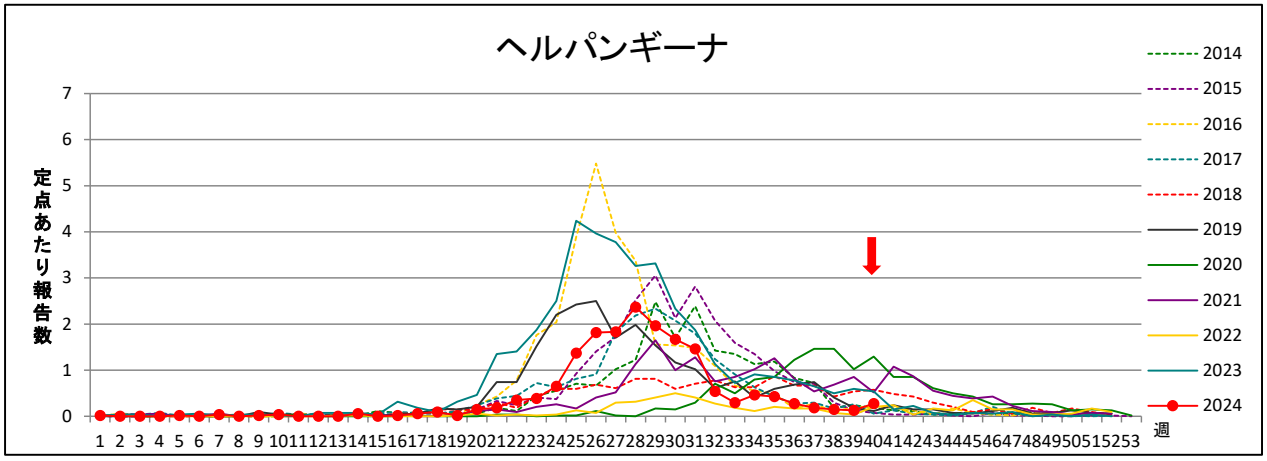

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025

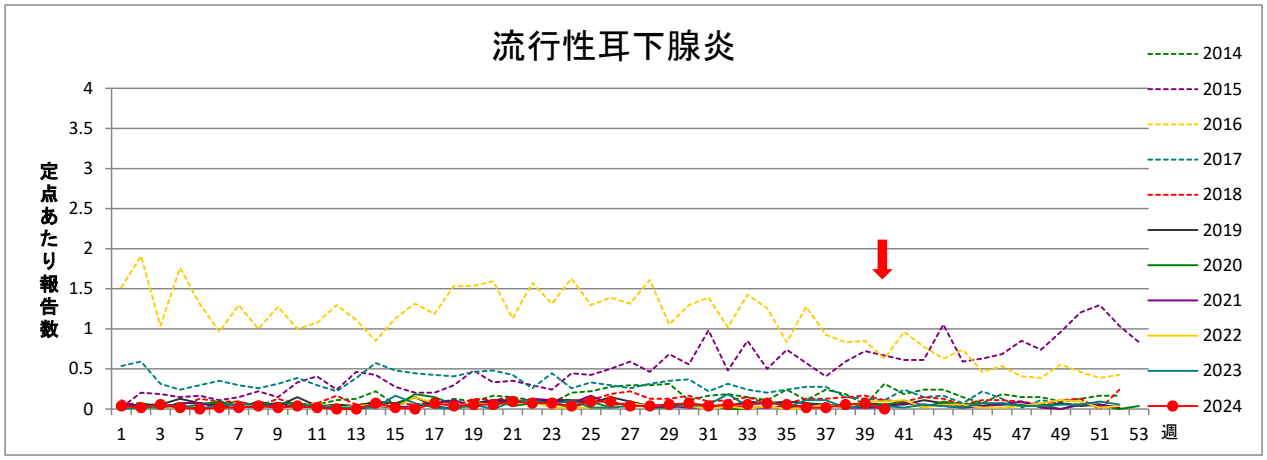

水痘
定点あたり報告数
週
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025

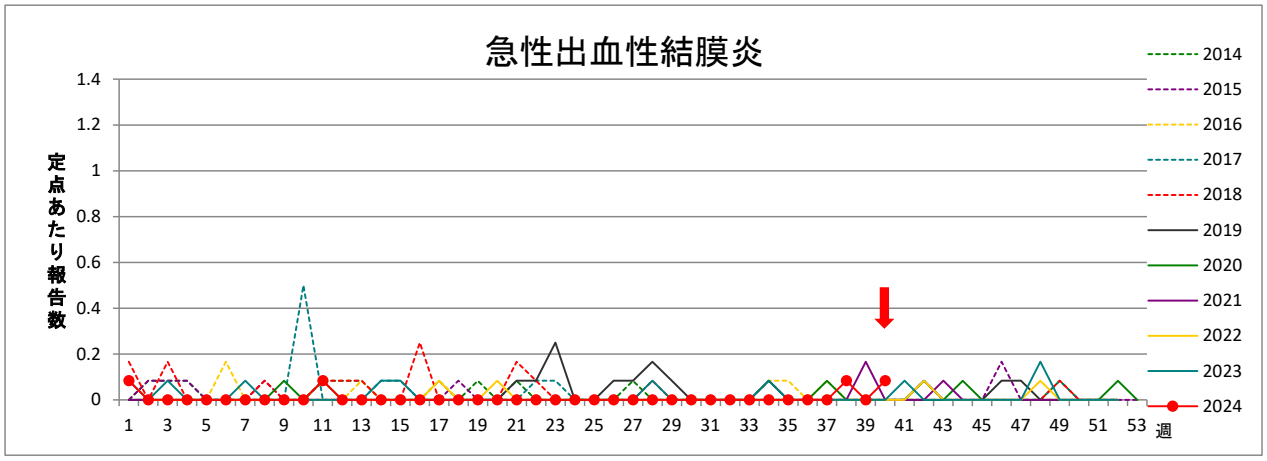

手足口病
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024

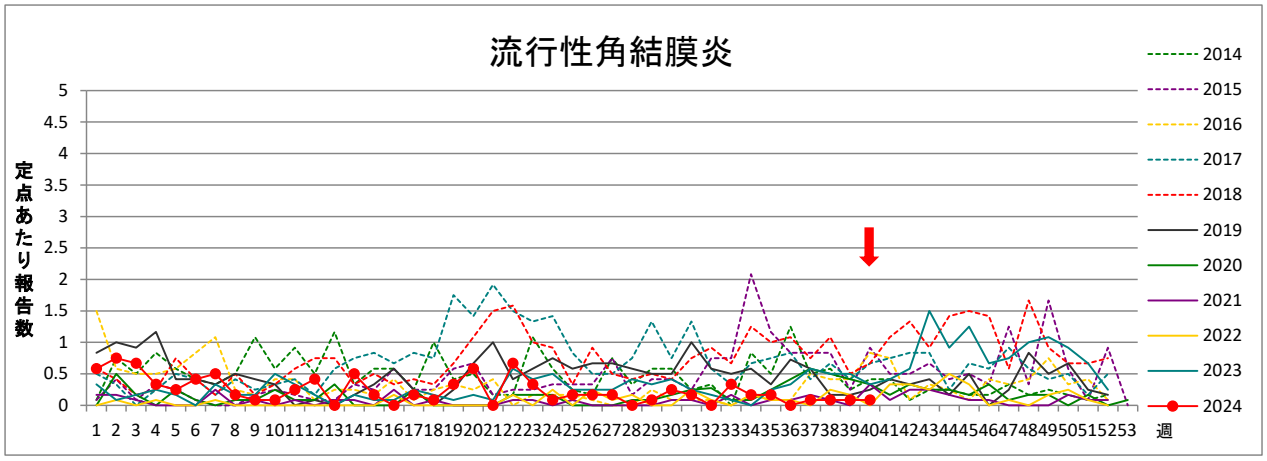

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024

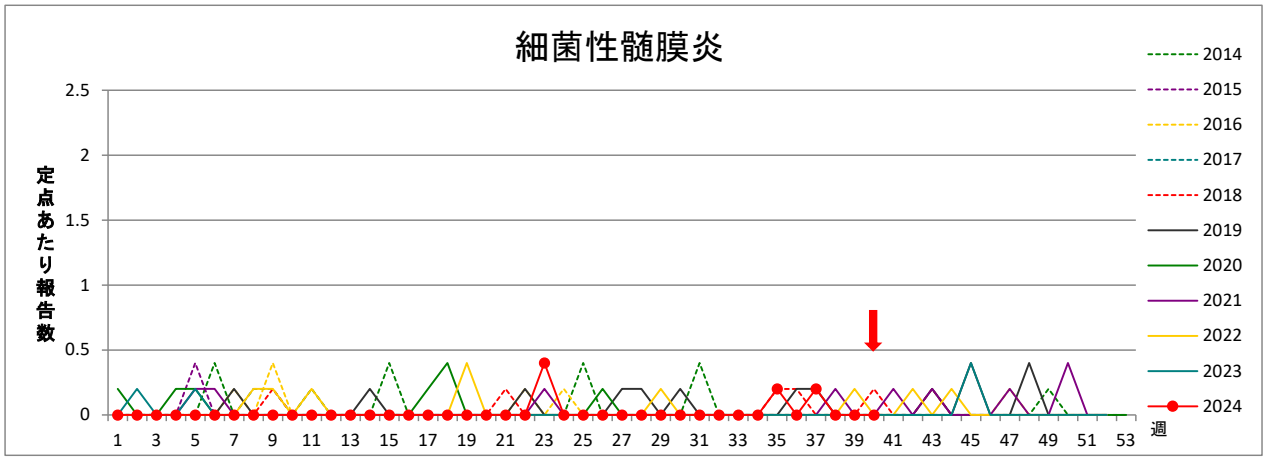

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024

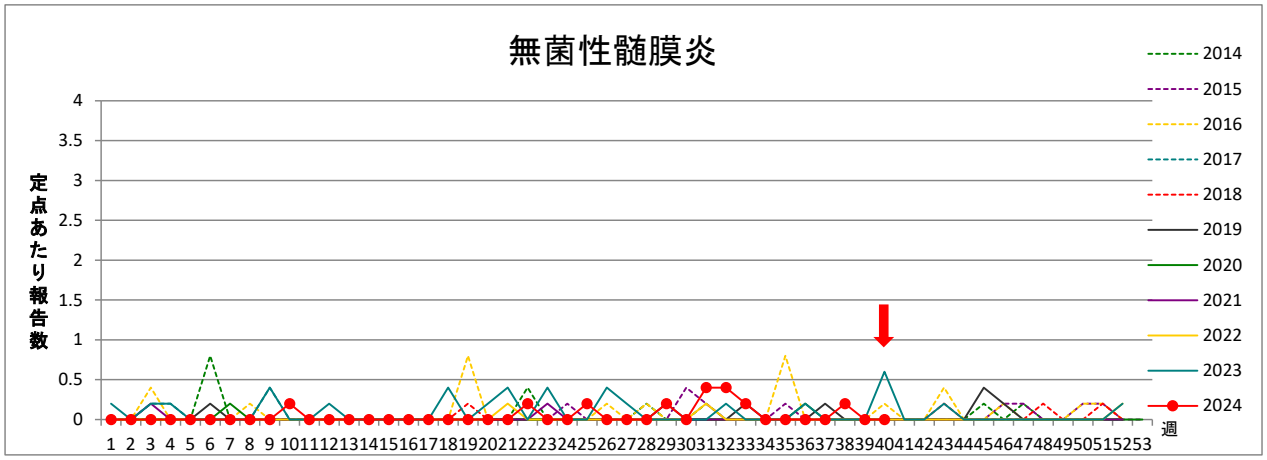

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024

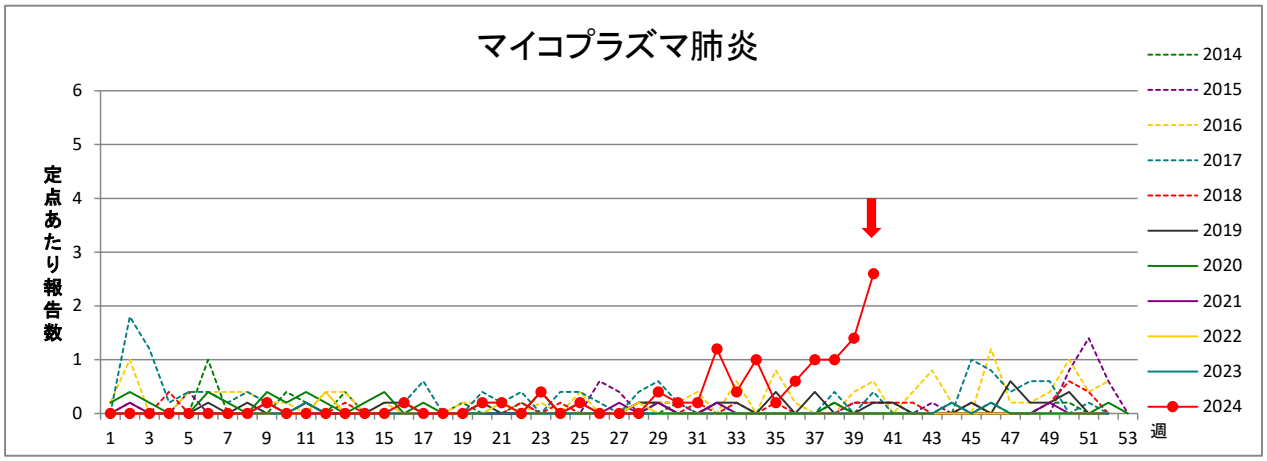

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024

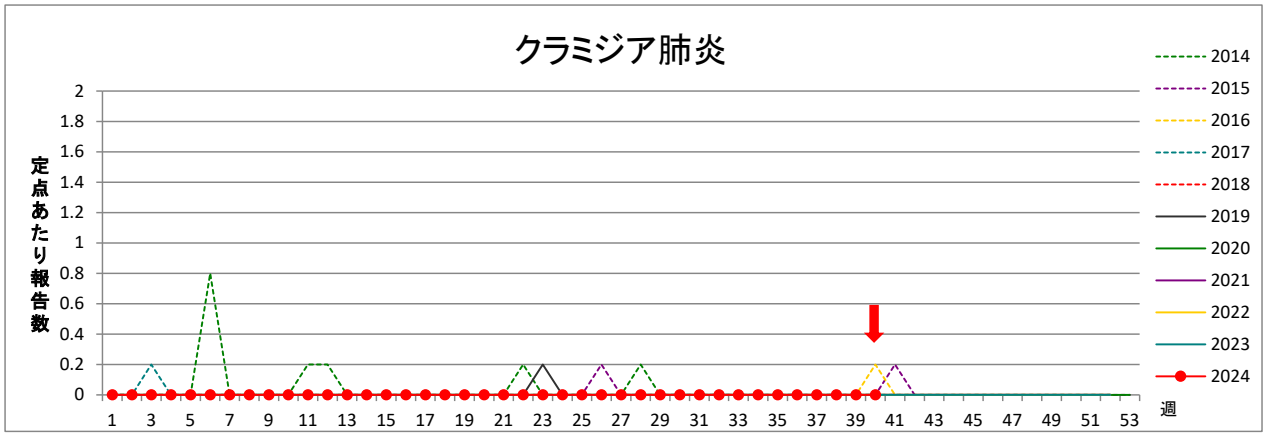

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024

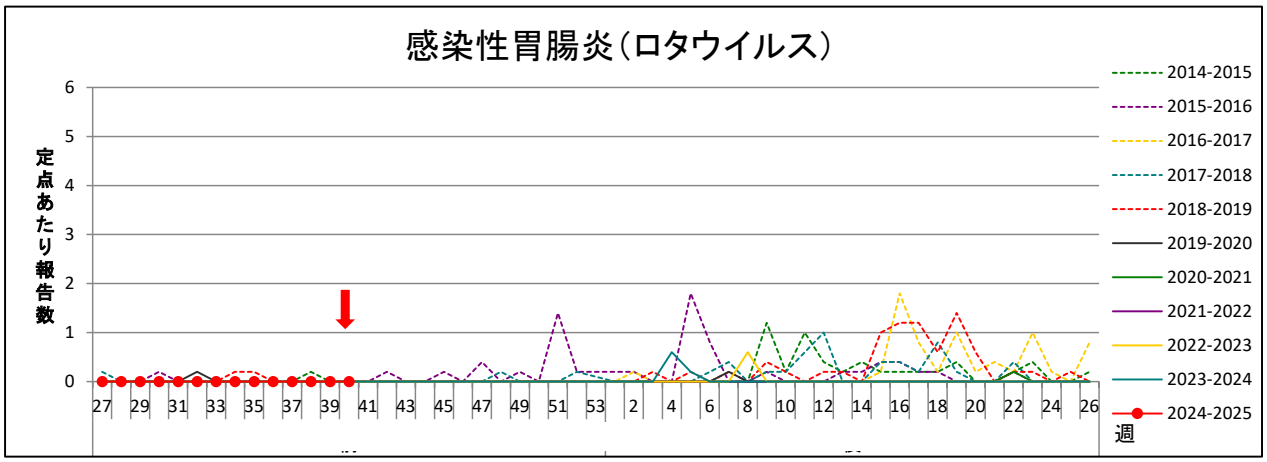

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025